

開 議

○町田義昭議長 おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員は、9番、渋谷佐輔議員の1名であります。よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

なお、遠藤誠一選挙管理委員会委員長から本日の会議を欠席させてほしい旨の届け出があり、許可いたしましたので、ご報告いたします。

本日の会議は、配付しております議事日程第4号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○町田義昭議長 日程第1、市政一般に関する質問を5日に引き続き行います。

それでは、ご指名いたします。

蒲生光男議員の質問

○町田義昭議長 順位10番、議席番号6番、蒲生光男議員。

(6番蒲生光男議員登壇)

○6番 蒲生光男議員 おはようございます。

私の通告しております質問事項は、平成22年度施政方針より3点についてであります。市長以下当局におかれましては、明瞭的確に答弁いただきますようお願いを申し上げます。

さて、バンクーバーオリンピックも終わり、スポーツの持つすばらしさが強い印象として脳

裏に焼きつきました。スポーツは、男女や年齢、国籍、世代を超え、共有できるものであり、経済苦境でどうしてもマイナス思考に陥りやすいこういうときの元気のもと、起爆剤になるものだとして改めて感じた次第であります。

特に女子フィギュアの日本人の活躍は目をみはりました。米国、長洲未来選手は両親ともに日本出身で、長洲選手はまだ国籍留保によるアメリカと日本両国の国籍を保持していて、両親はロサンゼルスですし店を営んでいるそうです。また日本語も堪能で、日本語によるインタビューの受け答えもできるそうです。川口悠子選手は1981年、日本生まれ、世界ジュニア選手権女子シングル銅メダリスト、実際は銀メダリストのようだという事です。2008年、ヨーロッパ選手権銅メダリスト、2007年、2008年、グランプリシリーズ入賞、ロシアチャンピオンです。川口悠子、アレクサンドル・スミルノフはロシアのフィギュアスケート界において大きな成功をおさめた最初の国際ペアとなりました。キム・ヨナの演技は完璧、非の打ちどころないものですが、はらはらどきどきの浅田選手の演技が人間らしいもろさも持ち合わせて、見る人を引きつけたのではないかと私は想像した次第です。

2月16日、新年度予算の概要が示されました。事前に正副議長に対して、市長は「新年度予算のキーワードはスポーツだ」と話されたと聞きました。スポーツを通してまちづくりを展開することは大賛成です。しかし、予算内示あるいは新年度予算を見ても、組織を新たに立ち上げたことと東北高校駅伝競走大会の県予選会開催などは上げられていますが、予算全体としてはその思いとは少し乖離があるのではないかと私は思った次第です。

新年度の施政方針は20ページに及ぶ大作となりました。正直、新市長の就任初年度施政方針のように総花的で耳ざわりのよい言葉が羅列し

ていると感じてしまいました。日本一幸せに暮らせるまち・長井を目指されることは結構ですが、「日本一幸せ」とは何でしょうか、何も日本一でなくともいいのではないのでしょうか。このことは4日、5日両日の多くの議員の質問でも言われていることですが、事業仕分けではありませんが、2番目でも3番目でもよいのであります。普通に仕事があつて、そこそこの給料がもらえて、人間として本来の普通の生活ができることを望む市民の方が圧倒的に多いのではないのでしょうか。日本一という言葉が7回出てきます。もっとわからないのが、「経済再生から地域再生とし、井戸を掘り、種をまく年にしたい」とありますが、今まで内容谷市政の3年間は何だったのでしょうか。今までの3年間にこれをやらなければならなかったのではないのかと私は思いますが、いかがでしょうか。

市長就任1年目、財源が足りず、前年比5億1,170万円不足することから特定目的基金の繰り替え運用を行うこととし、基金からの繰入金3億4,900万円を計上しました。議会としても苦しい台所事情を勘案し理解もし、議会として協力できることは協力してきたのではないかと思います。就任2年目も財政事情は大変でした。しかし、20年後半から21年度は衆議院解散モードに入り、世界同時経済不況に見舞われ、政府の相次ぐ交付金等が入りました。20年当初予算は104億3,000万円でしたが、最終予算規模は111億683万円となりました。地域活性化・緊急安心実現総合対策交付金など、1億6,530万6,000円が交付されたことが主な要因のようでもあります。平成21年度における地域活性化・経済危機対策臨時交付金など、5件の交付金総額が実に6億2,389万4,000円が交付されました。そのおかげもあり、財政調整基金にも積み立てが可能になり、21年度補正予算合わせますと2億5,000万円の基金となったものと思います。つまり、基金積み立ては交付金などの他力本願

によるものではないかということでもあります。いずれにせよ、緊急時のための基金積み立てができたことはよかったですと思いますが、この程度では安心できる内容ではありません。

市長が、市政座談会で市民の要望が聞ける状況になったというような、一見何でもできるような錯覚に陥る発言は、まだまだ慎むべき状況でないかと私は思います。

地区長手当をもとに戻すということも問題があるのではないのでしょうか。半減する案に総務・文教常任委員会では、修正案まで出して可決した経緯があります。修正案を出したということは、こんなに簡単に舌の根も乾かないうちにもとに戻すなどということは想定していないことであり、手当を削減しても市民が参加する協働のまちづくりを進める必要性を強く意識した結果であったかと私は思います。「手当をもとに戻してほしい」という声もゼロではないと思いますが、声としては少ないのではないのでしょうか。理由がよく理解できません。

あやめ公園入園料の改定に至っては、その最たるもので値上げ理由を今までどのように説明してきましたでしょうか。平成19年3月、一般質問では私と我妻議員、予算総括質疑では蒲生吉夫議員と高橋孝夫議員、6月一般質問で我妻議員、9月予算総括質疑で我妻議員が、あやめ公園入園料等についてそれぞれ質問をしております。入園者数、入園料、いずれも実情に合わない数字を議会に説明したということでもあります。絶対無理なことだと何度も言われましたが、結果は明らかだったと思います。入園者数と入園料の予算及び実績について商工観光課長から後ほど説明をお願いいたします。

休憩時間の改定については、休憩時間と休憩時間というあいまいな制度をこの際、明確にするという点では賛成しますが、これによって時間当たりの単価が変わるわけですが、その影響額をどの程度と想定しているのか、総務課長か

ら答弁いただきたいと思います。あわせて職員の生涯給料についてもご説明をお願いいたします。

普通、民間では時短になるということは、その分コストアップになり、金額換算しますので、その分を給料等に反映するのが普通であります。時短したままというのは、私としては100%賛成とはなりません。そもそもこの休息・休憩時間の取り扱いについて、その問題点を上げることから勤務時間を現在のように変更し、休息時間という時間の扱いを厳格にいたしました。そして、このときから窓口時間の延長を行い、市民サービスに資することといたしました。この案件でも実施するとしても、コスト的な問題がある、民間感覚を十分考慮した上で実施すべきであることを申し上げておきたいと思います。

再度申し上げますが、相次ぐ交付金等によって財政がよくなったとの錯覚に陥らないよう戒め、将来を見据えた緊張感のある財政運営に当たっていただきたいことを申し上げ、市長の見解をお願いするものであります。

次に、定員適正化計画について、なぜこのときに17人もの大量採用か、太田市や志木市の事例をなぜ学ばないのかについて市長に伺います。

類似の質問は、平成19年3月の一般質問で我妻 昇議員からも出ています。このときの市長答弁で、「よく比較される人口1,000人当たりの職員数を一般行政職で見ますと、長井市は平成18年4月1日現在で9.7人になります。置賜地方では米沢市が12.46人、南陽市が10.63人、高島町が15.52人、川西町が13.96人、小国町が20.22人、それから白鷹町が14.21人、飯豊町が17.16人で、平均で12.89人となっております、長井市は置賜の中でも極めて少ない職員数で行政運営をやっていると言えらると思います」と答弁されています。

しかし、福岡県宗像市の例を再度例に取り上げますが、宗像市の人口は9万4,996人、普通

会計決算ベースで職員数が415人、長井市は262人であります。置賜では単純に比較できないとしても、職員1人当たりの人口比率では長井市114人、職員1人当たりの市民の数であります、宗像市が229人ということになります。宗像市の人件費比率は14.2%です。

現在、定員適正化計画が達成していることもあるのかもしれませんが、19年3月、我妻議員に対する答弁でも、「定員適正化計画では人口減少と少子高齢化という条件の中で、さらに年度ごとの財源確保が不可避であり、スリムで持続可能な行政体となるには、現在の類似団体との比較にとらわれず、大胆に職員数を削減し、固定費の相当部分を占める総人件費を削減することが不可欠である。以上を踏まえ、定員の適正化につきましては、平成14年度に職員採用を再開して以降、退職者の3分の1をめどに新規採用を行ってまいりましたが、今後も私はこの方針を堅持しまして、平成17年4月1日現在の職員数を基準に、平成22年4月1日までに37名の職員を削減し、300名とすることを目標にしております」と答弁されております。

質問ですが、20年度ゼロ人、21年度7人、そして22年度17人というのは、退職者の3分の1をめどに新規採用するという原則を無視したということだと思います。なぜことし17人なのか、ことしは特別な年かもしれませんが、こういうやり方に対して、ある職員の方は「歴史は繰り返す」と言っておられました。志木市や太田市、ニセコ町、水俣市、上越市など、私たちと一緒にまちづくりや環境、観光、行革など、先進都市の視察をしてきたことを考え、市政運営を誤りのないものに進めていただきたいと思います。志木市でも学ばれたわけですが、コア業務以外はNPOであれ低コストで行政をサポートする体制を確立し、同じコストをかけるのであれば、その分より多く雇用を考えるべきだと私は思います。9割半減ゼロ運動と今まで何度か申し上

+

げてまいりましたが、10割半減ゼロ運動で進めるのがもっといいかもしれません。職員数は減らさない、人件費はピーク時の半減にする、しかし、市役所に対する苦情はゼロにする、このフレーズで市役所運営をするという理想を高くした取り組みをするべきだと思いますが、いかがでしょうか。

次に、3万人復活事業の効果は一連の事業メニューで効果が期待できるのか、年次目標はソフトも大事だが、ハード事業がなければ期待薄について伺います。

昨年2月、ついに3万人の大台を割り込みました。人口減少に歯止めをかけるという目標はどこの自治体でもやっていますので、まさに自治体間の知恵比べだと思います。今回、3万人復活事業と銘打って出された事業数は28、総額1億8,000万円であります。うち新規事業は17事業ですが、ソフト事業が主で果たしてどこまで効果が期待できるかということだと思います。さらに今までの継続事業が事業費総額の1億5,000万円、新規が3,000万円になっています。あやめ公園100周年関連事業は単年度のもので3万人とのかかわりがよくわかりません。

まず、それぞれの事業はどのような経緯があって、この事業メニューに加わったのか、不明であります。タブロイド版の「広報ながい」の別冊刷りをつくる事業に269万3,000円ですが、市報を2回発行に戻すことを考えれば、その必要性がよく理解できません。市民直売所については342万円が計上されていますが、12月予算総括質疑で明らかになったように計画の詳細が詰まっていない状況で、第4次長井市総合計画の実施計画書では市民直売所の売り上げ目標をことし6,000万円、来年8,000万円、24年は1億円としております。まさにまゆつばの計画ではありませんか。これでは第4次長井市総合計画の実施計画書そのものが怪しいと思ってしまうのですが、いかがでしょうか。

ソフト事業の意味もわかります。婚活事業では特に女性の結婚観が変わってきていますので、この人となら結婚したいと思わせる男の魅力を磨くことが私は必須条件だと思います。人口をふやすことは即そこに住む人がふえる。住んでいる人が新たに産むということです。いろいろな条件が整わなければ、そのようにはなりません。他の市町村とは違う、その違いをどのように出すかだと思います。雇用の機会が多い、市税や国保など市民負担が他の自治体と比べて少ない、行政を含めたさまざまな市民サービスが整っている、住環境がよい、子供を産んでみたくくなるような子育て環境が整っている、医療福祉体制が整っているなどが完備していることであり、何よりも自分が住んでいることに誇りと自信があることが必要なのではないのでしょうか。

以上、市長の答弁をお願いし、壇上からの質問といたします。

なお、答弁は日本一とか、その他の今までの2日間の質問に対する答弁済みのことにつきましては、できるだけ簡略化していただき、答弁をお願いしたいと思います。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 おはようございます。

蒲生光男議員のご質問にお答えいたします。蒲生光男議員からは大変示唆に富んだ質問内容、ご提言をいただきまして、ありがとうございます。

まず最初の、今までの内谷市政の3年間は何だったのかという質問でございますが、この3年間は私は財政の健全化、再生に精いっぱい取り組んできた、そのために集中改革プランに忠実にその実現に向けて努力してきたというふうに思っております。

そして、議員からは意味不明だというふうなことでございますが、平成19年に経済再生戦略会議を立ち上げまして、なかなか新たなことを

できない状況でございましたので、少ない予算で財政が健全化してから、まず最初にどんな手を打つかということをも市民の皆様含め、いろんな議論をしてきたと、それをようやく22年のこの春から行いたいということでございますし、あと3万人の人口を切るということはもちろん予想されたことでございます。しかし、それが予想より早く来てしまったと、それぐらい過疎化が進みつつあるんだなということで、いわゆる地域再生ということで「3万人都市を復活しよう」というキャッチフレーズのもとに、まだまだ不十分でございますが、いろんな取り組みを準備してきたものを少しずつソフト中心に行うというようなことで、私はやってきたというふうに思っております。

例えば日本一幸せに暮らせるまちっていうのは何だと、日本二でも三でいいんじゃないかと、もちろんそのとおりでございます。それは前にも申し上げましたように、例えば事業仕分けで科学技術が世界一に対して何で1位なのか、2位ではだめなのかということとは全く性格が違う、世界一じゃないと科学っていうのは、やはり結果が出る分野でございますので、なかなか事業化に結びつかないということなんではないかなと、そういった意味では、これはあくまでも私たち長井市民の心の持ちようでございますので、もちろん議員ご指摘のとおり、日本一なんてのはそもそもキャッチフレーズだと申し上げてるとおりでございます。

次に、2番目のあやめ公園の入園料値上げ時の説明はどこに行ったのか、あるいは財政調整基金、地区長手当等々でございますが、まず財政が国のいろんな補正等々あるいは緊急経済対策等によって、いっぱい確かにいただきました。それで財政がよくなったというふうに錯覚してるんじゃないかということでございますが、それでは置賜の中でほかの2市5町、この2年間の中で財調を積んだ市町あるでしょうか。これ

は長井市だけです。ほかの市町村は減ってるんですね。そういった中で長井市は決して無理な事業をせずに着実に、まずは財政を健全化するんだということで財調を2億5,000万円、今回5,000万円計上させていただいてますが、積もうとしてる、それは蒲生議員のご指摘はちょっと違うんじゃないかと。

それから、市政座談会で市民の要望が聞ける状況になったような、一見何でもできるような錯覚に陥る発言はまだまだ慎むべき状況ではないかということでございます。そのとおりでございます。しかし、私はそんなことは一切言っておりません。蒲生光男議員と一緒に座談会もございました。そのとき、私言ったでしょうか、そんなことは一切言っておりません。よくなりましたよと、しかし、まだまだ予断を許さない病み上がりだと、だから皆様のご要望をもう少し待って下さいと、少しずつリハビリをしながらやってきますということは、すべての座談会で申し上げておりますので、それはちょっと違うんじゃないかなと私は思っております。

それから地区長手当の件でございますが、議員がご指摘あった部分、半減する案というのは、これは地区長手当ではなくて隣組長手当のことではないかと思っております。3,900円の隣組長手当を2,000円にということで、確かに約半分の提案はさせていただきました。しかし、これは地区長さんは地区の中で選ばれると、ところが隣組長手当は全員で隣組長をなさるんだから、やっぱりそれは協働の精神で半分をお願いできないだろうかと、大変厳しい状況なので何とかお願いしたいということでしたが、議会からの修正案があつて3,100円と同じ削減率をお願いしたということでございます。隣組長手当については、これは大道寺信議員だったでしょうか、お答えいたしましたけども、結局ほかの市町村、特に新8市の地区長手当あるいは自治会、町内手当っていいですかね、そういったものと比較

+

して長井市は著しく低いと。やはり議員の報酬もそうですし、我々特別職の報酬もそうですし、新8市が基準じゃないかと、それに比べてやっぱり3割ぐらい低いと。ですから、これは戻ささせていただくべきじゃないかというふうなことでございますので、地区長手当がそれでいいということであれば、やっぱり我々ももつともつと削減しなきゃいけないということになります。しかし、私も5%、特別職は5%ご協力いただいておりますが、これは22年度まででございますので、そういった意味では財政が一足先に少しよくなったということで一番の私ども行政のパートナーである地区長さん、あるいは隣組長の手当をもとに戻すというのは、私は市長として当然だというふうに思っております。

次に、入園料の件でございます。確かに入園料についてはいろいろご提案、ご指導もいただきました。そもそも入園料とは何かということでございますが、これはあやめ公園の運営をきちんとするために観光客の皆様からいただくお金なんですね。ですから、市民からちょうだいしてる負担とは、ちょっと違うと。私は当時も申し上げたつもりでございますが、やっぱり観光客から見て安かろう悪かろう、それで果たしてあやめ公園はいいのかと。そうじゃなくて、きちんとやっぱり、入園料は昭和61年から上げておりませんので、もう20数年上げてないということから、それなりの料金はいただいて、その分で還元しようじゃないかと。ところが残念ながら議員ご指摘のとおり、そういった状況には至らなかったということで、これはおわびを申し上げなきゃいけないというふうに思いますが、あやめ公園の100周年にもう1回原点に戻ろうということで、今回500円に提案させていただくということでございまして、確かに舌の根の乾かないうちに何だというのはごもつともでございますが、それはぜひご理解いただきたいというふうに思います。

次に、財政がよくなったとの錯覚に陥らないように慎め、将来を見据えた緊張感のある財政運営に当たっていただきたいということでございますが、これ、休憩時間にちなんだことだと思います。確かに昨年はいわゆる人勧の実施に関することでございますので、実は県内の置賜以外の市町村は大部分、これを昨年行っております。しかし、私ども長井は特に製造業を中心に非常に厳しい状況だと、この時短が実質的に職員給与の時給を単価を上げるということもあって、昨年はやらないというふうに私どもしましたところ、ほかの町村も置賜は倣いましたけれども、しかし、2年目に入って全国的な状況も見てみますと、ほとんどの市町村、都道府県でやってるということでございますので、いつかはやるとしたら、やはり落ちついた今の時期にまずやるべきだなということで考えたところでございます。

将来を見据えた緊張感のある財政運営ということでございますが、これは蒲生光男議員おっしゃるとおりでございますが、ですから22年度も後ほど質問にもありますが、ソフトばかりじゃなくてハードということでございますけれども、ハードについてはやはり同じ轍を踏んではいけないと、いわゆる無計画なハードを今までやってきたと、それが将来のツケとなって今、我々に来てると。それを、また同じようなことを私どもがやったら、また将来、私たちの子供とか孫に行くんじゃないかと、これは厳に慎まなきゃいけないということで、まずは病み上がりの状況でございますので、どういったハードを整備するかといったことは、きちんと計画を立ててやるということで、無計画なものはやっております。例えば……。

(「それ3万人計画の中でそういったものも入れるべきじゃないかという意見ですか」の声あり)

○内谷重治市長 いや、これは緊張感のある財政

運営ということでございます。

じゃ、次に参ります。次は、4点目の市役所に対する苦情をゼロにする、このフレーズで市役所運営をするという理想を高くした取り組みをすべきだと。これは蒲生光男議員が企業の方にお勤めのときに、特にそういった企業ではこういった理念が非常に重要だということで、これはごもっともでございますし、私ども市でも3S運動というのはやりますが、なかなか徹底できなかったと。あと、またポスト3Sということで、企業理念に近い市役所の職員の行動規範をつくろうということで今行っております。やはりなかなか全国に自治体でやってるところはあるんですが、まだまだ少ないんですが、こういった考え方は非常に重要だというふうに思っております。

あと、その職員のことでございますが、例えばこの集中改革プランでは平成22年度まで300名以内、また退職者の3分の1内という条件で進めてきたと。ですから、どちらかが達成すれば、これはいいというふうに私は考えております。ですから、蒲生光男議員が志木市のことで「コア業務」ということをおっしゃって、以前も「50人で市役所いいんじゃないか」とおっしゃってますが、私は、それでは行政は市役所は機能しないというふうに思っております。これは以前からの考えで、志木市に行って話を私も聞きましたけども、全く志木市と長井市の状況を比べてもちょっと余りに違いがあり過ぎるというふうに当時から思っておりました。

例えば、こういったデータがございます。志木市の人口は7万人です、今もうちょっとふえてるかもしれませんが。面積が簡単に言えば900ヘクタールあるんです、私どもは2万1,400ヘクタール。ですから、それと産業別就業割合見ますと、大都市のベッドタウンですから失礼な言い方でございますが、いわゆる勤めには行ってる方がほとんどで日中、人が少ないんです

ね。3次産業の割合が71.5%、長井市は50%ぐらいでございますが、2次産業が25.2%というような、私もあの当時行きましたけども、農業委員会を廃止するっていうふうに言ってましたですね、たしか。ですから全く違うんですよ。多分、観光協会もないですし、商工観光課あるいは農林課、そういったところが必要ない市なんです。

あと、例えば太田市は人口が22万人ぐらいでしょうか。太田市、面積的には結構広いんですけども、やはりあそこはスバルの企業城下町で、あとサンヨーでしたっけ、大きい企業がたくさんあって、それで2次産業、構造的には長井に近いんですね、ものづくりのまちなんですけども、そことはちょっと違うだろうと、人口規模が違います。

あと宗像市です。これは、私は残念ながら行くことはできませんでした。仕事の都合で行けませんでしたが、人口が9万5,000人ぐらいですね。そして、面積は1万1,000ヘクタールぐらいですけども、あと3次産業が74.1%なんです。これはもうほとんど北九州、福岡、そういった大都市のベッドタウンですんで、そこと長井市を一緒にするというのは難しいんじゃないかと。

ですから私は置賜の中で、あるいは県内の新8市とか、あとは全国の類団200団体、それと比較すれば、まだまだ少ないというふうに私は思ってますし、18年からもう既に40名近く削減してるわけですよ。ですから私は、これはちょっと考え方の違いでしょうけど、これ以上、職員を減らすっていうのは難しいだろうと。新しいことができない、あるいは今やってることを民間にできることはある程度やってますんで、これ以上は難しいと思ってます。

それと歴史は繰り返すと、ある職員はおっしゃったということでございますが、どういう職員かわかりませんが、実は平元市長のとき、

+

たしか34名採用してます。しかし、齋藤伊太郎元市長のときも17名採用してるんですよ。これはどういうときかっていうと、よくわかるんですが、私が採用になった年なんです。昭和54年、第2次オイルショックのときです。ですから当時、就職口がなくて、かなり集中しました、市役所に。今も同じ状況なんです。ですから、こういった未曾有の経済不況のときに地方に帰って地方のため働きたいという学生がいっぱい来ましたんで、これは好機だと。しかも、その当時はまだ15名ぐらいの希望退職を含めた職員でございましたけども、もう300名以下にしておりますので、その範囲で今回は採るべきだということで、歴史は繰り返すっていう意味はよくわかりませんが、全くオイルショックと同じような経済危機だということで、それ以外の理由はありません。これを何ですか、特別な年っていうのはちょっと意味がわかりません。

それから最後になりますけども、人口をふやすには、これ、3万人に関することですね、他市町村とは違いをどう出すかですということで、これ、議員と全く私も同じ考えなんです。ですから、最後に議員がおっしゃってるように何よりも自分が住んでることに誇りと自信があるのは必要でないかと、全くそのとおりです。だから、日本一幸せに暮らせるまちっていうキャッチフレーズにしよう、ほかの市町村ではまだやってない幸せを実感できるというまちをしよう、それはとりもなおさず第4次総合計画の基本理念とかまちづくりの案、全く違いがないんです。これそのものなんです。しかし、わかりにくいキャッチフレーズだからキャッチフレーズをかえてやろうと、これ、三助の精神、全く同じです。協働のまちづくりを進めるためのキャッチフレーズなんですよ。

また、例えばハード部分ということでございますが、どのようなハードを議員は想定されてるのかですが、先ほども申し上げましたように

財政はまだ病み上がりの状況でございますので、やっぱり年次計画を立ててきちっと、その投資効果を考えないといけない。そして選択と集中でできるハードを計画を立てて、しかも有利な事業でやっていきたいというふうに思っております。

また、例えばタブロイド版の件でございますが、これ、なぜタブロイド版を必要かといったことは前にもお話ししましたが、結局、今の長井市民は私どももそうですけども、周りの市町村から長井は財政が悪い、ちょっと前まで市町村合併はほかの議会でも言われてましたが、長井市のような財政悪いところと合併したら結局そのツケは我々が負うんじゃないのかと周りの市町村から言われてたんですよ。ですから、その誤解を払拭するためにタブロイド版で発信しようじゃないかと、周りの市町村によくなったんですよ。

それから、あやめ公園の100周年、これも何で3万人かとおっしゃるんですが、議員もご指摘のように、オリンピックのことをおっしゃってるじゃないですか、結局、経済不況でどうしてもマイナス思考に陥りやすい、そういったときにこういったイベントは起爆剤になるんですよ。議員おっしゃるとおりなんです。ですから、あやめ公園で市民の活力、元気を取り戻す、そういった長井にしようじゃないかっていう再スタートだと私は申し上げてるところでございます。

ですからタブロイド版も結局、今まで暗いやみの中だったわけですから、それを明るくこういうことをやってる、今まではこうだったということを、そしてまちづくりのいろんな動き、あるいは元気のある人、そういった人たちを紹介したりすべきじゃないかというふうに思っておりまして、こういった3万人の事業を打ち出したところでございます。以上でございます。

○町田義昭議長 飯澤常雄総務課長。

○飯澤常雄総務課長 おはようございます。

蒲生議員のご質問にお答えいたします。私には2点で、いわゆる時短によります時間外手当等への影響、それから職員の生涯の給料手当等人件費の状況、2点だったと思います。

まず初めの時短による影響でございますが、ご案内のように1日の勤務時間8時間から7時間45分へということで、このたび議案出しているわけでございますけれども、これによりまして時間外単価の算出が変わります。これは議員ご指摘のとおりでございます。およそ3%程度、単価は上がります。ちょっと端数もつくんですが、およそ3%でございます。端的に時間外、単年度4,000万円ということで申し上げますと、およそ120万円程度の増額ということになるかと思えます。

次に、2点目の生涯の賃金の関係でございますが、初めにお話しいただいたときに、ちょっとうちの方でどういうふうに積算しようかなど、ちょっと悩んだんですが、22歳大卒の新規学卒者をモデルといたしまして、仮定で職位昇任どういうふうになるかということを設定いたしました。28歳主任、40歳係長、45歳主査、それから50歳で補佐というようなケースで設定をさせていただいて現在の給与基準、それから共済組合との率等で算定を仮定計算でございますが、いたしますと、給料手当、給料が1億4,600万円、手当が8,300万円、合わせて給料手当では2億2,900万円、これが生涯にわたる賃金、あくまで現在の状況でという内容でございますので、よろしくお願ひしたいと思います。それから関連して共済組合費、これは負担金でございますが、それから退職手当組合等の負担金等も合わせますと共済が4,800万円、退職手当で3,200から300万円というところでございますか、合わせますと約3億900万円といった試算結果でございます。以上でございます。

○町田義昭議長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えいたします。

あやめ公園に係る入園料並びに入園者の目標、そういった実績の推移でございます。これにつきましては、平成19年以降、産建の議員の皆様方にご報告をさせていただいてる数値でご報告をさせていただきたいと思えます。

まず入園料でございますが、平成19年当初の予算額目標値でございますが、2,764万4,000円に対しまして実績額が1,680万円でございます。有料入園者の目標値として平成19年は4万9,600人を目標としてございましたが、実績といたしまして3万1,436人、平成20年が目標の入園料が1,950万2,000円、実績が1,282万円、入園者の目標値が3万4,700人でしたが、実績が2万4,293名、平成21年が入園料収入の目標値が1,525万9,000円でしたが、実績が1,228万5,000円、入園者の目標値が2万9,200人に対しまして実績が2万3,092人ございました。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 答弁をいただきました。ありがとうございます。

最初にお断りをしなきゃいけなかったんですけども、議長の許可をいただきまして、これ、私がいろいろ勝手につくった資料ですけども、配付させていただきました。

それから地区長手当の関係については、一部言い方が適正さを欠いたなというふうに思っております。

まず、確かに志木市、宗像市と一概に比較できないことはよくわかります。ただ、一つの参考ということで申し上げたわけですが、例えば宗像市に行ったとき、こういうふうに言ってるんですね。「市の職員を採用する場合は200人に1人の割合で採用しています」という説明だったんですよ。ですので、そういったことを大いに参考にすべきだということは、これまでも申し上げてきたところなんです。この条件が違うか

+

ら、これはあくまでも参考なんですけども、基金ってどのぐらい持っているのかなっていうふうに調べてみました、宗像市ですね。そうしましたら、宗像市の市民1人当たり19万円だそうです。ですので、これを金額換算しますと、長井市に当てはめると基金残高が54億円あるという計算になるんですね。ですから、単純にはもちろんいきません。長井市は今2億5,000万円ですので、8,000円ぐらいですか。では、自治体によって随分差があるもんだなあと、どこの自治体に住むかによって、そこに住む幸せの実感ってというのは違って来るんだらうなというのを、こういう資料を見て思ったところなんですよね。そういう意味で市長の目指す日本一、それはそれで結構ですよ。ですので、本当に市民が幸せを実感できるようなまちづくりを進めていただきたいというのがまず第1点でございます。

それで、そこに関してですけども、ちょっと市長にお聞きしたいんですが、寄附採納を毎年いただけてますよね。多くの方々から寄附採納をいただけておりますが、ふるさと応援基金というのに対しては、いろいろ礼状を出したりいろんなことをやっていらっしゃると思うんですけども、例えば今回の寄附採納で、かつて山形県の縦断駅伝競走大会で西置賜のエースと言われた牛澤幸男さんが今、世田谷区の方にお住まいでございます。今まで図書の寄附がずっと続いたんですけども、ことしはふるさと応援基金の5万円寄附いただけております。そのほか、毎年いつも文教の杜運営の中ではこの方が、あるいはまた長井樹石会とか、いつも決まったように寄附をしてくださるの方々に対して、どのように扱っているのかなというふうに私、非常に気になったもんですから、その点どうなさっているのか、まずお聞きいたします。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

例えば長井樹石会については昨年、感謝状を

贈呈させていただきました、市民表彰式で。あと、それぞれ寄附いただいている方に対しては、あるいは基金にこういったお金をという方に対しては礼状でございます。あと目録とか、もっていただく方はもちろん市報などに上げさせていただいて、あとは礼状で私も丁寧なお礼を申し上げる程度でございます。

なお、総務課長の方から少し詳細をお話しさせていただきます。

○町田義昭議長 飯澤常雄総務課長。

○飯澤常雄総務課長 ふるさと納税関係について申し上げます。

企画調整課の方で特産品、地場のさわのはなですとか地酒等を組み合わせて、寄附金額に応じて感謝の意ということで対応させていただいております。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 長井を思っずとそこにお住まいされている方々は多いと思うんですよ。ですので、ぜひそういうことがいい意味で波及されるように、この市の対応も誤りないようにしていただきたいもんだなというふうに思います。

もう時間もありませんので、まず単純明快に聞きますが、定員適正化に関して、そうしますと繰り返しますが、3分の1補充というのは目標を達成してるので、これからは新たな考え方で臨むんだというふうなことよろしいんですか。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 議員のご指摘のとおり、新たな考え方でこれからは職員採用を、定員適正化を考えていきたいというふうに思っています。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 そうしますと、新たな定員適正化計画というのをつくって、これからどのような方向にしていくのかということをやっぱり示していただきたいわけですよ。今ま

では、さっき言いました19年3月の我妻 昇議員に対する答弁はまだ生かされてる、生きてるもんだと私なんかは思っ……。

(「違うと思いますけれども」の声あり)

○6番 蒲生光男議員 思っていましたので、その確認の意味で今回質問させていただいてるわけなんですよ。だから新しい定員適正化計画をつくるのであれば、ではどういう考え方でそれを策定するのかということを明確にさせていただきたい。その際、市長もかつて答弁なさっていらっしゃるように、窓口業務等についてはそのサポーター制度とか、そういったものに大いにこれからも勉強しなきゃいけないと、検討しなきゃいけないというふうに答えてらっしゃるもんですから、そこでの整合性がどうなのかなというの思っ……聞いてるわけで、その点はどうか。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

まず、22年度までが集中改革プランの年度でございますので、22年の前半ぐらいに出したいというふうに思っております。

あとサポーター制度、志木市とか太田市のようなのは、長井市でも私も市長に就任してからいろいろなNPO法人と、あるいは市民の皆様と詰めさせていただいておりますが、かなり難しいと。志木市あるいは太田市のようにやるのは困難ではないかなというふうに思っておりますし、なおかつ、最近はやっぱ市民が求めることが非常に多岐化してると。ですから、窓口の職員にいろんなことを聞かれると。そういったときに果たして市の職員でない方がきちっと責任を持ってお答えできるかという、非常に難しいなというふうに思っております。したがって、今のところはパートナー制とかそういったものを導入というのは難しいという判断でございます。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 そうしますと、サポーター制あるいはパートナー制というのは導入は現実的には難しいということですね。いかどうかは別問題としまして、それから、あやめ公園入園料に関して「職員の意識が低いので、公園料の入園料を値上げした」というような発言を中道公民館でなさってるというふうに聞いたんですが、それは事実ですか。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 中道の座談会でそういったお話をしたのは事実でございます。ただ、そのことだけではなくて、職員だけではなく、あそこの公園業務全般に携わる人間そのものが、やっぱりまだまだ意識が低いということはお話しました。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 そういうことってなかなか、前後の説明がないとひとり歩きする可能性があるもんですから、私はちょっと危険だなというふうに思ったんですよ。

それと、4日の答弁で、高橋孝夫議員だったと思います。「管理職が一番むしろ市民サービスの第一線だということで、職員との打ち合わせをきちんとしなきゃだめなんです。これが欠けている管理職が大変多いと私は思っています」という発言がありましたけども、大変多いっていうことは、ここの中の半分ぐらいは該当するっていうふうに理解してしまうんですよ。ですので、こういうのも余り、一生懸命頑張っ……て市長の答弁をつくったりしている総務課長も問題なのかということになりかねませんので、こういうのは少し慎んでいただいた方がいいと私は思いますが、いかがですか。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ご指摘ありがとうございます。確かにたくさん多い、たくさんいるという表現をいたしました。私からすれば一人でもいれば、たくさん多いというふうに思っています。

管理職っていうのはすごく責任が重い。ところが一人でもいたら、もう全部だめですよ。それは議員も民間の厳しさ、ご存じだと思います。100人中99人頑張っても1人がいたら、もうだめなんです。私はそれを申し上げた。ただ、言葉が足りなかったということで、大部分の管理職は大変頑張っております。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 最後に、3万人復活に関して、ちょっとこういうのをつくってみたくてすけども、それでそれぞれの事業の評価を一度してみたらどうかなと思ったんですよ。それで例えば、これは私の主観が入ったものですから余りこれでどうのこうのって言わないでほしいんですけども、タブロイド版については重要度というのはどうなのか、緊急度、難易度、効果はどうなのか。私は財政がおかしくなると、真っ先にこういったことが削減対象に入ってくるんじゃないかなと思ったりするんですね。そうしますと、継続したいといってもなかなか継続できないということ考えますと、評価は高くできないということで、こういうふうに数字を入れたんですけども、以下、同じようにこういうような評価をしてみたらどうかなと思います。

もう一つは、3月4日に読売新聞にこういう記事があった。「新婚に2年間家賃補助、住宅購入は最大160万円」、これは上山市の事例です。私が申し上げてるハード事業というのは、具体的にこういったことをしていただいて、例えば平野地区に10世帯、西根地区に10世帯、豊田地区に10世帯、伊佐沢10世帯、その定期借地権をつけて、そしてやるんですよ。白鷹町の市営住宅っていうのは3万5,000円だっていう話、以前にしましたよね。そういったことをやって、具体的に勤労世帯、子育て世代をそこに誘致するというようなことをしますと、そこで人数がふえていくわけですよ。そういう具体的な目標をハード事業の中に加えていったらどうかとい

うことで申し上げておりますので、その点いかがですか。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 12月の藤原議員の提案も含めて、ぜひやりたい事業です。例えば私は宅造事業を検討いたしました。しかし、なかなか今の長井市の財政状況からいろんな総合的に勘案してやらなきゃいけないということで断念いたしましたけども、ぜひやりたいし、しなければならぬと。しかし、蒲生議員からもご指摘のとおり、まだそこまではすぐできるような財政状況ではないということで、22年度中にそういったことが年度途中でも許される状況になったら、ぜひ議会の皆様のご理解をいただいてやってみたいというふうに思っております。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 最後になるのかもしれませんが、この3万人復活事業の窓口がどこかと、どこに聞けば皆わかるのかというようなこともありますので、そういったことも一元化していただきたいと思うんですよ。

それから、ながいファン倶楽部、2,345人の会員がいるっていうのがありました。実は私も会員でございまして、こういったものが送られてきました。4月1日から3月末が期間なものですから、私は去年の7月に入ったんですよ。それで5万円ぐらい物産館で物を買いました。多分一番買ってるんじゃないかなと思います。1,000円の入会金なんですよ。こういうものがあって、それでメールマガジンが月2回送られてきます。大変参考になるいいものが多いんですよ。だから、この中でどのぐらいの方がファン倶楽部に入会されてるか私は知りませんが、これも、ぜひ入会していただいて、そしてどのような情報発信がされているか、これやっぱり見ていただきたい。そうでありませんと、このファン倶楽部について、ああでもないこうでもないって言える資格はないと思うん

ですよ。だから、ぜひその点はお願いしたいと思えますけど、いかがでしょうか。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 議員の方から大変、会員になっていただきましてありがとうございます。

それとあとJANを使って長井の行事等も随時発信などもしております。ただ、やっぱりまず職員の入会も少ないですし、あと市民にもう少しPRしたいなど。それから、これから首都圏含めた向こうの方でも応援サポーターをこれから立ち上げていきたいというふうに思っております、ぜひいろいろご指導いただきたいと思えます。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 済みません、最後にお願いだけしておきます。

職員採用に関しまして私は専門職の採用というものに目を向けていくべきでないかと。というのは、7日の読売新聞です、1面の見出しに「ネットサーバー193自治体無防備」という記事があったんですね。結局、そういった職員がないということが問題だというふうに指摘がしてありましたので、例えば長井市の職員採用計画においても、そういう専門分野の職員を積極的に採用していくということが、むしろこれから長井市のまちづくりに大きい効果をもたらすものだというふうに考えておりますので、その点はぜひ考慮していただくようお願い申し上げます、質問を終えたいと思えます。ありがとうございました。

○町田義昭議長 以上で一般質問は全部終了いたしました。

散 会

○町田義昭議長 本日はこれをもって散会いたします。

ます。

ご協力ありがとうございました。

午前11時01分 散会

+